
幸福論 ~ Requiem fur Arbeiter ~

open_high

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸福論 ～ Requiem für Arbitrer ～

【Nコード】

N7983Z

【作者名】

open | high

【あらすじ】

20代で就職、結婚、子育て、マイホーム購入を経験した後、掴み処も抛り所もなく、季節と供にやってくる倦怠や不安や焦燥を微かに感じながら「幸せとは何か」が分からずに淡々と過ごす極平凡な労働者の、心の荒廃とそこからの救済を描く私小説です。

誘う声と供に

階下から伝わる振動と供に不安が一気に駆け上がってくる。

うつらうつらしながら、夢とも現実とも付かぬ境界で独り白く柔らかい何かを、練ったり捏ねたりしている刹那をドアの隙間から差し込む生暖かく容赦ない光が、焦燥と汚濁の散乱する世界へ引き戻す。
「パパ・・・ごはんだよ」

一昨晚からの勤務で身体の内同心円状の唯一点に溶け落ちて焦げて、咽る様な煙を立てながらも酒と煙草と心に引つかかって外れない”何か”に促され辛うじて目を開け、人と形容できるであろう具現の棺に戻りつつ、深呼吸をして、顔をドアの向こうへとやる。

「ああ・・・」

返事とも唸りとも分別がつかない、その声を聴いて娘は階下へ後退していく。

私は体のバランスを熟考して立ち上がり、周到に念押ししながら室の一点へ焦点を引く掛ける。

年の暮れ、これらの倦怠が不意に発作として、または春に咲く桜や秋に実る稲穂のように、

溶けて沈んで、回転と明滅の最中に襲ってくる。

こんな時は、起きること、決められた時間に食事を摂ること、風呂に入ることに、一切が苦痛で鈍重に思われ、特に人と話すことが、どれほど難解で奇怪な数式の一項を解くことよりも辛く、冷淡で非情で一瞬の忘我也許すことなき業だとか荷だと感じさせるのである。

冬の冷たさを無言で吸収し押し黙っている手摺を握り階下へ降る。

暗い長い螺旋階段の道すがら、私の中に懇々と沸いて弛まぬ闇ともいえるべき何かは、
息を潜め、その同心円状の一点に波紋1つ起こさず、潜り込み定着する。

水面を走る帆船は何も見ぬフリをして滑っていく。

薄闇の中で輪郭が朧になったドアを開けて、鼻を抜ける香辛料の成熟した、甘くもあり軽やかでもある芳醇な香りで全身を満たしつつ、明るく照明の灯る暖かな室へ滑り込む。

何時からか死んだ様に鳴かなくなったダイニングの時計は午後8時を告げていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7983z/>

幸福論 ～ Requiem fur Arbeiter ～

2011年12月25日17時48分発行